

令和7年度入学者選抜

神奈川県立相模原弥栄高等学校音楽科 特色検査（実技）受検上の注意

○全専攻共通

- ・実技検査の検査時間は、5分以内とする。5分経過した時点で検査監督より終了の旨が告げられるので、その時点で演奏を終了すること。5分を超過したことによる評価への影響はない。また、検査監督の判断により、検査時間の都合上、①の課題の演奏を中断し、②の課題の演奏に移るよう指示することがある。
- ・演奏曲については、特に指示がない限り原則的にカットを行わず曲頭から演奏する。ただし、伴奏のみの前奏、間奏、後奏などは適宜カットするほか、ピアノ専攻の②の課題では繰り返しを省略する。
- ・「任意の1曲」については、電子オルガン専攻を除き、クラシック系の楽曲とする。ただし、管弦楽曲、吹奏楽曲、室内楽曲、合唱曲のパート譜の演奏は不可とする。
- ・出願時に、演奏する楽曲の楽譜及び「特色検査（実技）提出用紙」を本校に提出する。ただし、音階、リズム打ち、ロール、分散和音、コールユーブンゲンは除く。（提出された楽譜は返却しない）
- ・伴奏は行わない。伴奏付の楽曲を伴奏なしで演奏することは可能とする。
- ・検査当日、受検生の集合時間から実技検査開始時間までにリハーサルを行う時間を確保する。時間と場所については特色検査（実技）の当日に指示する。
- ・服装は自由とする。（演奏しやすい服装で試験にふさわしいものであれば、制服以外の着用も可能）

○ピアノ専攻

- ・ピアノは検査会場の楽器を使用する。グランドピアノ。椅子は背付きのものを使用。

○管弦打楽器専攻

- ・検査で使用する楽器は、各自持参する。ただし、マリimba、コントラバス、ハーブについては、検査会場に用意された楽器を使用してもよい（出願時に「特色検査（実技）提出用紙」に記入すること）。その際、マレット、弓などは持参すること。
- ・持参した楽器の管理は各自で行うこと。
- ・演奏開始前に検査会場のピアノを使用してチューニングを行うことができる。
- ・音階（小太鼓の場合リズム打ちとロール、マリimbaの場合音階と分散和音）については、当日、演奏楽譜を提示する。楽譜を見ながら演奏することができる。予見の時間は確保する。

○電子オルガン専攻

- ・電子オルガンは検査会場の楽器（ヤマハ ELS-02C）を使用する。
- ・記憶メディアについては、USB フラッシュメモリーのみ使用可能。
- ・サポート演奏等、演奏情報及びXG音源を使用している楽曲（データ）での受検は不可。
- ・「任意の1曲」については、クラシック系の楽曲に限らない。自作曲、自編曲の楽曲でも可。
- ・レジストレーションの設定は2分以内に行うこと。

○声楽専攻

- ・「任意の1曲」について、演奏開始前に検査会場のピアノを使用して、開始音等を確認することができる。
- ・コールユーブンゲンの演奏課題は当日指定する。演奏用の楽譜は検査会場で提示され、楽譜を見ながら演奏することができる。

ピアノ専攻用

受検番号	氏名	在学（出身）中学校
※高等学校で記入	フリガナ	立 中学校

↓課題①で1つ、課題②で1つ、それぞれ○印を記入する。

課題①	<input type="checkbox"/>	C.チェルニー（ ）番練習曲 Op.（ ）より（ ）番
	<input type="checkbox"/>	クラマー=ビューロー 60の練習曲 より（ ）番
	<input type="checkbox"/>	M.モシュコフスキー 15の練習曲 より（ ）番
	<input type="checkbox"/>	F.ショパン 練習曲 Op.（ ）より（ ）番
課題②	<input type="checkbox"/>	W.A.モーツァルト ピアノ・ソナタ（ ）調 K.（ ）第（ ）楽章
	<input type="checkbox"/>	L.v.ベートーヴェン ピアノ・ソナタ（ ）調 Op.（ ）第（ ）楽章

（記入上の注意）

- ・この用紙は出願の際に提出する。記入にあたっては、別紙「特色検査（実技）受検上の注意」をよく読んで上で行うこと。
- ・提出された課題（楽曲）については、変更できない。
- ・課題①と②から1つずつ選び○印を記入する。また選んだ楽曲欄の（ ）に番号、調など必要な事項を記入する。
- ・演奏する楽曲の楽譜の左上に、下の「楽譜提出用紙 課題①」「楽譜提出用紙 課題②」をそれぞれ添付して出願の際に提出する。（提出された楽譜は返却しない。）

きりとり

楽譜提出用紙 課題①

令和7年度

受検番号	氏名	専攻
※高等学校で記入		専攻

きりとり

楽譜提出用紙 課題②

令和7年度

受検番号	氏名	専攻
※高等学校で記入		専攻

管弦打楽器専攻用

受検番号	氏名	在学（出身）中学校
※高等学校で記入	フリガナ	立 中学校

受検する楽器を1つ選び○で囲む。

フルート	オーボエ	クラリネット	サクソフォーン	ファゴット	ホルン
トランペット	トロンボーン	ユーフォニアム	チューバ	ヴァイオリン	ヴィオラ
チェロ	コントラバス	クラシックギター	ハープ	小太鼓	マリンバ

課題① ※クラシックギターのみ記入	M.カルカッシ 25の練習曲 Op.60 より () 番
課題② ※全楽器記入	作曲者名
	曲名
受検楽器	※クラリネットのみ どちらかを○で囲む B♭管クラリネット ・ その他 () ※サクソフォーンのみ どちらかを○で囲む アルトサクソフォーン ・ その他 ()
楽器の当日借用	※コントラバス・ハープ・マリンバのみ どちらかを○で囲む 試験会場の楽器を借りる ・ 楽器を持参する

（記入上の注意）

- ・この用紙は出願の際に提出する。記入にあたっては、別紙「特色検査（実技）受検上の注意」をよく読んだ上で行うこと。
- ・提出された課題（楽曲）については、変更できない。
- ・クラシックギターは、課題①の () に番号を記入する。
- ・課題②の作曲者名と曲名を記入する。（課題曲が指定されている楽器は、選択した番号も必ず記入する。課題が「任意の1曲」となっている楽器は、選んだ楽曲について、できる限り詳細に記入する。）
- ・クラリネット・サクソフォーンは、受検楽器について記入する。
- ・コントラバス・ハープ・マリンバは、楽器の当日借用について記入する。
- ・演奏する楽曲の楽譜の左上に、下の「楽譜提出用紙 課題②」を添付して出願の際に提出する。（ただし、音階、リズム打ち、ロール、分散和音は除く。提出された楽譜は返却しない。）
- ・クラシックギターのみ、「楽譜提出用紙 課題①」を添付して課題①の楽譜も提出する。

きりとり

楽譜提出用紙 課題①（クラシックギターのみ使用）

令和7年度

受検番号	氏名	専攻 [楽器]
※高等学校で記入		専攻 []

きりとり

楽譜提出用紙 課題②（全楽器使用）

令和7年度

受検番号	氏名	専攻 [楽器]
※高等学校で記入		専攻 []

電子オルガン専攻用

受検番号	氏名	在学（出身）中学校
※高等学校で記入	フリガナ	立 中学校

↓課題①の中から1つ、○印を記入する。

課題①	<input type="checkbox"/>	スメタナ 交響詩「わが祖国」よりモルダウ（ヴルダヴァ）
	<input type="checkbox"/>	J.S.バッハ 「8つの小プレリュードとフーガ第1番」より プレリュード BWV553
	<input type="checkbox"/>	プロコフィエフ 交響的物語「ピーターと狼」Op.67より ピーターのテーマ
課題②	作曲者名	
	編曲者名	
	曲名	

（記入上の注意）

- ・この用紙は出願の際に提出する。記入にあたっては、別紙「特色検査（実技）受検上の注意」をよく読んだ上で行うこと。
- ・提出された課題（楽曲）については、変更できない。
- ・課題①から1つ選び○印を記入する。また課題②で選んだ楽曲について、できる限り詳細に記入する。
- ・演奏する楽曲の楽譜の左上に、下の「楽譜提出用紙 課題①」「楽譜提出用紙 課題②」をそれぞれ添付して出願の際に提出する。（提出された楽譜は返却しない。）

きりとり

楽譜提出用紙 課題①

令和7年度

受検番号	氏名	専攻
※高等学校で記入		専攻

きりとり

楽譜提出用紙 課題②

令和7年度

受検番号	氏名	専攻
※高等学校で記入		専攻

声楽専攻用

受検番号	氏 名	在学（出身）中学校
※高等学校で記入	フリガナ	立 中学校

課題①	コールユーブンゲン第1巻より（当日指定）
課題②	作曲者名
	曲名（原語）
	いずれかを○で囲む <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> 低声用 中声用 高声用 </div>

（記入上の注意）

- ・この用紙は出願の際に提出する。記入にあたっては、別紙「特色検査（実技）受検上の注意」をよく読んで上で行うこと。
- ・提出された課題（楽曲）については、変更できない。
- ・課題②で選んだ楽曲について記入する。
- ・演奏する楽曲の楽譜の左上に、下の「楽譜提出用紙」を添付して出願の際に提出する。（提出された楽譜は返却しない。）

き り と り

楽譜提出用紙 課題②

受検番号	氏 名	専 攻
※高等学校で記入		専攻